

ワニのガルド

わびしむから生まれる心のつながり

3年 R・Kくん

「ガルドはほげほげいってさ。」

と、ぼくはヒナちゃんに言っておきたい。すがたは見えなくても、ガルドとヒナちゃんたちの心のつながりはずっとつづいていくと思っからだ。

お話の中で、人気者のはずのアヤカちゃんが、たった一度の発言でみんなにわらい者にされ友だちもはなれていってしまうという場面がある。その時のアヤカちゃんの気持ちがぼくもよくわかる気がした。ぼくも前に、学校で自分の言ったことを信じてもらえなかったことがあるからだ。友だちからウソつきだと言われて、くやしかったし、つらかった。だけど、見たこともないものは信じられないと思う友だちの気持ちもわかる。大切なのは、相手の気持ちをわかってもらうこと、思いやりを持つことだと思っ。

ヒナちゃんとアヤカちゃんは友だちになったことで、さびしい気持ちがなくなり、ガルドのすがたは見えなくなってしまった。三人ですつとなかよくいられたらいいのと、ぼくも少しさびしい気持ちになった。ガルドは自分のことが見えなくなるのはいいことだと言っただけで、おわかれはやっぱりさびしい。

さびしい気持ちは、だれだっけ持つことがあると思っ。ヒナちゃんのようにかんきょうがかわって友だちができないときや、アヤカちゃんのように友だちにかまれていても、自分のことを本当にはりかいてもらえないと感じるとき。大切な人とおわかれするとき。少しもさびしい気持ちがない人なんていないと思っ。だから、人とのつながりをもとめる。

ガルドはすがたが見えなくなっても、ヒナちゃんたちの心の中のことについて、さびしい気持ちのときでも心を強くしてくれるそんないになった。ぼくも、自分の大切な人にとってそんなそんないになれたらいいなと思っし、ぼくにとってのガルドのようなそんないができるように、人とのつながりを大切にしていきたいと思っ。